

第61回インナー大会
討論部門
未成立パート
受け入れ可能分科会
テーマ趣意文一覧

番号

テーマ趣意文

分科会申請にはこちらの番号を使用します。
お間違えがないようにご記入ください。

大学 ゼミ パート

部門番号

部門名

テーマ

サブテーマ

趣意文

未成立パート受け入れ分科会一覧

<申請番号 10>

芳賀寛ゼミ Aパート

宮本悟ゼミ 待機児童パート

<申請番号 15>

佐藤拓也ゼミ 女性労働パート

清水俊裕ゼミ Cチームパンチパート

以下、各パートのテーマ趣意文を掲載いたします。

※各分科会の討論内容について実行委員会は把握しておりません。

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている「**部門番号一覧**」からご確認ください。

中央大学 芳賀寛ゼミ A パート

部門番号 12 部門名 社会政策論

テーマ ライフ・ワーク・バランスの実現

サブテーマ テレワークと女性の働き方

趣意文

かつての日本は、「男は仕事、女は家庭」が当たり前の風潮であった。しかし、現代の日本は少子高齢化が進む一方で女性の社会進出が進んでいる。総務省の労働力調査によると、2018年（平成30年）の女性労働力人口は前年に比べ77万人増加し、3,014万人であった。育児休業、仕事復帰したいと考える女性も増えており、男女雇用機会均等法や育休後などの整備により女性の労働環境改善に向けた取り組みも積極的に行われている。

しかし、家庭と仕事の両立をするための働き方が普及しつつあるが、未だ環境整備に問題があり、女性の多様な働き方、それぞれの能力を活かすことができる環境を目指すことが不可欠となる。

そこでコロナウイルスによって周知された「テレワーク」の導入によってどのようにライフ・ワーク・バランスを実現できるのか・させるのか。加えてテレワークによる働き方の課題を踏まえながら女性の働き方について改善策を提案し模索する。

10

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている「部門番号一覧」からご確認ください。

中央大学 宮本悟ゼミ 待機児童パート

部門番号 13 部門名 社会保障論

テーマ 待機児童問題について

サブテーマ 日本で待機児童が減らない理由とは

趣意文

現在東京や大阪のような都市部では「待機児童」が問題となっている。「保育園落ちた日本死ね」という女性の投稿によって一般人にも知られるようになったこの問題。待機児童とは何か？そして政府や自治体はどの程度努力し、どの程度成果が出ているのか？そして、現行の制度・対策の穴、それを突いた効果的な対策を先行研究やインタビューをもとに検討していこうと思う。

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている「[部門番号一覧](#)」からご確認ください。

中央大学 佐藤拓也ゼミ 女性労働パート

部門番号 13 部門名 社会保障論

テーマ 雇用制度・福祉制度からみる女性労働

サブテーマ 新世代の女性活躍に向けて

趣意文

女性の労働に関する問題を解決し、女性の社会進出・女性の活躍の促進を目指すということが世界中で言われています。そのため、私達のグループでは女性労働の問題点を分析しその問題点を解決するためにはどのようにすべきなのかを研究しています。

具体的には、育休・産休に際する離職率や女性の非正規労働の増加といったことを日本型雇用の制度的な問題点からの分析や、ワークライフバランスの実現のためにどのような制度が必要か、などです。これらを企業ごとの育休・産休の制度や取り組みの比較や、日本の福祉制度を歴史的な文脈からの分析などで考察します。

また女性の社会進出といわれているが、そもそも「社会」の中には何が含まれているのか、国・個人が労働に対してどのような意識を持っているのかを考察していきます。

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている「[部門番号一覧](#)」からご確認ください。

神奈川大学 清水俊裕ゼミ C チームパンチパート

部門番号 2

部門名 経済政策

テーマ ジェンダー格差について

サブテーマ 労働におけるジェンダー格差

趣意文

長らく日本ではジェンダー格差の問題への声が挙がっている。非正規雇用、賃金格差、育休取得率、管理職の男女割合の違いなど、様々な問題があげられる。その中で私たちのチームでは主に労働におけるジェンダー格差と賃金格差を主なテーマとしていく。ジェンダー間において生じるこれらの格差問題は何が原因なのか、男女における労働環境下での違いとはどのようなものなのか、という課題を考えていくことを通じて、経済に与える影響がどれほどのものか、具体的な解決策はないのかということを議論していきたい。